

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-562
研究課題名 卵巢未熟奇形腫における FISH 法での MYCN コピー数の検討
研究期間 西暦 2013 年 1 月（倫理委員会承認後）～ 2015 年 3 月
対象材料 <input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 卵巢） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（） 上記材料の採取期間 西暦 1994 年 3 月～ 2012 年 12 月
意義、目的 奇形腫とは 3 胚葉性由来の組織が混在して出現する腫瘍で成熟型と未熟型に分類される。卵巢に生じるものは大部分が成熟型奇形腫（皮様嚢腫）であり、卵巢良性腫瘍のうちでもっとも出現頻度が高い。一方で未熟型奇形腫は悪性腫瘍であり、特徴として腫瘍内に未熟な神経組織を含む。神経芽細胞腫などの神経系腫瘍では高頻度にかん遺伝子である MYCN（注 1）の異常なコピー数増加がみつき、このコピー数増幅は非常に強い予後不良因子となっている。 未熟奇形腫においても幼若な神経組織の量が患者予後を規定している事より、未熟奇形腫の神経組織において MYCN のコピー数変化が起きていないかどうかを FISH 法（注 2）を用いて検討する事を本研究の目的とする。 注 1：がん遺伝子 MYC のファミリー遺伝子で神経系細胞で発現が増強する n-Myc をコードする遺伝子。 注 2：蛍光 in situ ハイブリダイゼーション（fluorescence <i>in situ</i> hybridization; FISH）とは、蛍光物質や酵素などで標識したオリゴヌクレオチドプローブを用い、目的の遺伝子とハイブリダイゼーションさせ蛍光顕微鏡で検出する手法である。
方法 平成 3 年から平成 24 年までに当科で手術を受けて卵巢未熟奇形腫と診断された症例を対象とする。ホルマリン固定された卵巢未熟奇形腫の神経成分を含むブロックを薄切して、MYCN probe を用いプローブを用いた FISH 解析を行う。MYCN のコピー数と未熟奇形腫のグレード、予後との相関について解析を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北メディカルメガバンク 北谷和之 tel 022-717-7252 kitatani@med.tohoku.ac.jp 東北大学病院産婦人科 豊島将文 tel 022-717-7252 m-toyo@med.tohoku.ac.jp